

報告事項（9）

資料9

南北循環線等主要バス路線ワークショップについて

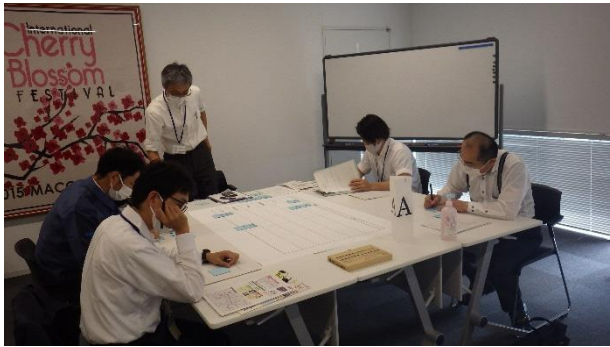
1. ワークショップの目的

関係者間で合意形成された「第2次黒部市地域公共交通網形成計画」においては、今後の公共交通のサービス水準の維持や拡充に向けて、利用促進、効率的な運行体系への見直しを行うこととされています。

今回行うワークショップでは、路線バスの見直しの方向性や素案について議論を行うことで、その後行われる作業部会、協議会での見直し案に関する議論を円滑に進め、来年度以降実施される路線バスの見直しにつなげることを目的とします。

2. ワークショップ参加組織

- 桜井交通株式会社
- 富山地方鉄道株式会社
- 黒部モビリティサービス株式会社
- YKK株式会社
- 黒部市 都市計画課



3. スケジュールイメージ

	2021 年度				2022 年度以降
	4－6月	7－9月	10－12月	1－3月	
法的 法定協議会 手続き等	協議会	本日開催	協議会 運輸局・県との協議・申請等	協議会 生地循環線延長	見直し路線 新ダイヤで運行開始
作業部会	開催済み	作業部会	作業部会	作業部会	
関係者協議 ワークショップ	開催済み 見直しに向けた課題・アイデア出し	第1回ワークショップ	第2回ワークショップ 議論テーマの絞り込み	第3回ワークショップ 見直し案方向性の取り纏め ・運輸局・県との協議 ・認可申請等 ・国県市予算要求	

4. 第1回ワークショップ協議結果

日時
令和3年7月13日（火）15：00～16：30

場所
黒部市役所2F 市民交流サロン1

参加者
桜井交通株式会社：神谷氏、廣木氏 富山地方鉄道株式会社：住田氏 黒部モビリティサービス株式会社：飯村氏、舛田氏 YKK株式会社：岡氏 黒部市都市計画課：奥水、櫻田、林

協議結果

	課題	アイデア
運行ルート	・非効率なルートとなっている ・県補助対象とならない路線(10km以下)がある ・通勤客以外の乗車が少ない【生地線】 ・利用実績の低いバス停が多い ・バス停数が多い【愛本コミュニティタクシー】	・循環線にし利便性を向上させる【新幹線市街地線・南北循環線】 ・15時を境に進行方向を逆転する【新幹線市街地線】 ・ルートの見直し(プラント・道の駅を経由する)【石田三日市線】 ・生地線と市街地線を1路線にする場合、運行事業者も統合が良いかも ・新幹線市街地線を旧市役所跡地施設も経由できるようルートを考える ・道の駅K O K Oくろべへの乗り入れ【石田三日市線】 ・通勤時間帯と日中の運行で別ルートを考える【石田三日市線】 ・速達タイプ(通勤帯)と通常タイプ(日中帯)の設定 ・日中路線の統一化【生地線】 ・なるべくお医者さんを回るルートを作成 ・バス停の統廃合 ・大雪対策として除雪路線・県道を通る路線に変更 ・バス停を減らす(各町内に一つ、公民館前に一つなど) ・雪害を受けやすい区間のルート変更【南北循環線】
ダイヤ	・ルートなど利便性がよくなれば間引きしてもよい(日中帯) ・黒部駅ー電鉄黒部駅間が同じ時間帯に重複して何台もバスが動いている ・昼間乗車しない停留所が多い ・ダイヤ改正がある年とない年があり事業者負担差が大きい	・昼間のデマンドタクシーの活用【新幹線生地線】 ・パターンダイヤの導入(9:00, 9:30など) ・経費的に予算内であれば休日定時運行をする (降雪時の対応)
停留所環境	・夜間は、停留所付近が暗すぎる ・冬季は、停留所付近で待つことができない	・YKKAP(株)エクステリア部門にバス停上屋を数種類作製してもらう ・バス停はYKKAP製品の展示場的なものにする ・バス停にQRコード等を設置し、情報取得(機会)を拡大する ・利用数が多いバス停から整備する (効果の大きい見直し案を採用)

	課題	アイデア
運賃		- 公共交通の路線内の運賃の一律化 - 運賃を一律200円の定額制とする - 一律200円の定額制は良い(分かりやすい) - 運賃の異なる区間に共通券(フリーきっぷ)を発行 - 高校生への学割運賃の適用
利用促進	- 空きが活用されていない - 土曜日や夜間の需要があるのではないか(需要がわからない) 65歳以上の需要がわからない	- 個人時刻表の作成 - 戸別訪問事業の実施(営業活動) (利用者調査を実施し、需要を確認した上で)土曜ダイヤや夜間ダイヤ(深夜)を設定 (期間を定めて)65歳以上は無料キャンペーン→需要があるかどうかを調査
車両	- 空席が目立つ【新幹線市街地線】 - 積み残しが発生【池尻線】 - 少ない運転手での運用が難しい(中型免許の壁)	- 車両のダウンサイズ化【新幹線市街地線】 - 車両の変更(ハイエース(14人乗り))【池尻線】
運賃の支払い方法		- 支払方法を多種多様化する(ＩＣカード、paypayなど) - 運賃の電子決済
運行体制		2社共同運行の解消(一元化)【南北循環線】 - 黒部モビリティを幹事社とし、地鉄、桜井交通が運行受託する形とする【南北循環線】 - 住民による運行と路線バスとの連携 関連
降雪時の対応		- 路線パトロールに対する市の支援(除雪情報の共有) - 迂回運行(ルート)の設定 → (運行ルート)
その他		- 赤字ではなく社会的に必要な支出という認識をもつ - 効果の大きい見直し案を採用する

5. 今後の主な議論の方向（案）

○運行ルートの見直し ～ ターゲットの利用実態を踏まえた、運行ルートの見直しによる利用者増 ～

- ・循環ルートの導入検討
- ・「通通勤時間帯の速達便」と「おでかけ先を考慮した日中便」の導入検討（緩急分離）
- ・ニーズを踏まえたバス停の新設の検討
- ・利用の少ないバス停の統廃合の検討
- ・冬期間の運行円滑化に向けたルートの検討 など

○ダイヤの見直し ～ 利用実態を踏まえた、ダイヤの見直し ～

- ・昼間のデマンド化の検討
- ・定時ダイヤ化（パターンダイヤ）の検討 など

○新たな利用促進策の導入検討 ～ 利用促進に向けた、新たな取組の検討 ～

- ・コミュニケーション施策の検討（個別訪問、個人時刻表など） など

○運賃や支払い方法の見直し ～ 利用促進に向けた、運賃・支払方法の見直し ～

- ・運賃格差の是正策の検討（定額制運賃、共通券、フリー切符など）
- ・学割運賃の導入検討
- ・電子決済の導入検討 など

○停留場環境の見直し ～ 利用促進に向けた、停留所環境の見直し ～

- ・サービス水準の検討（QR コード設置による情報収集機会の拡大、バス停上屋設置の検討など）
- ・適切なバス停設置場所の検討 など

○車両の見直し ～ 利用実態を踏まえた、車両の見直し ～

- ・利用実態や既存車両（運転手）を踏まえた、車両の小型化・大型化の検討 など

○運行体制の見直し ～ 持続的・安定的な運行に向けた、運行体制の見直し ～

- ・運行管理の一元化（運行受託化の検討）
- ・（冬期間を中心に）道路管理情報を共有できる仕組みの検討 など

○その他

- ・見直し策の優先順位の検討
- ・市民等に対する運行事業に関する啓発方法の検討 など